Society of Japan Science Teaching

唯名論実念論論争について

村井護晏[A]，　村井保夫[B]
MURAI Moriyasu，　MURAI Yasuo
大阪教育大学[A]，大阪市喜連西小学校[B]

【キーワード】唯名論，実念論，論争，おばあちゃん仮説

1．はじめに

ギリシャの時代から自然をみる観点として，唯名論と実念論の２つの観点があり，ある意味では今日にもおよんでいる．概念は客観的存在として実在する（実念論）のか，それとも概念は人間が個物の集合を表現するためにつくった便宜的な名前にすぎない（唯名論）のかの問題である．

2．実念論解釈

現世界を考えるとき，現実に存在する個物が実在的客観的な存在であることを否定する人は少ない．もっとも，目を閉じれば世界は消え失せ，目を開けば世界が現れるという徹底的な観念論は論外である．このとき，個物の客観的存在は認めるが，概念の客観的存在は認めがたいとする考えは，根強く存在する．例えば，質量という概念は人間が名付けただけの存在なのか，客観的存在物なのかを考えるとき，判断しにくい．しかし，ニュートンの第二法則である　（質量）X（加速度）＝（力）　を考えるとき，この法則は
①自然に存在する客観的ルールである．
②単に人間がつくりだした自然解釈のためのマニュアルにすぎない．
という２つの考え方をすることができるが，②の立場は考えにくい．だとすると，①の立場を取る限り，法則の構成要素である概念，この場合はこの質量は客観的なものと解釈することが妥当となるであろう．この意味では今日多くの科学者は意識しているかどうかに関わらず，実念論的観点に立っているように思われる．

3．脳科学解釈

このような問題を認識するのは脳であるのだから，今日の脳科学的観点からみなおしてみる．向こうに座っているのは自分の「おばあちゃん」だと分かったとき，脳の中ではどうなっているのかを考えるとき，ひとつには「おばあちゃん仮説」がある．「おばあちゃん」をみれば最終的に発火する細胞があり，その細胞が発火するとおばあちゃんと認識できるのである．前アメリカの大統領クリントンをみれば発火するという細胞が見つかり，「おばあちゃん仮説」が指示されたりもしている．しかし，この仮説は外界の個物に対応する数だけの個物認識細胞が必要であり，脳細胞が不足し，受け入れにくい．そこで，もうひとつの仮説「細胞群」発火仮説である．いくつかの細胞が発火したとき，その外界の個物を認識出来るというものである．これはその個物を要素とする概念に関与する幾つかの細胞群の発火によるものだとする．クリントン細胞発火実験もこの細胞群発火仮説でも説明できないこともない．だとすると，この「細胞群仮説」は個物の判定は個物を説明する概念の細胞群間の AND 部分の発火で認識するのだと解釈され，実念論的解釈に近いものになる．

4．おわりに

脳科学はまだ発展途上であり，過信することはできない．思いもかけない考え方が提供されるかも知れない．しかし，今日的観点からの考察を，今日の覚え書きとして残しておく．

NII-Electronic Library Service